

教育センターだより

令和5年9月25日発行
 北九州市立教育センター
 TEL 641-1775
 FAX 641-1833
 【ホームページ】
<http://www.kita9.ed.jp/eductr/>
 【Eメール】
admin@eductr.kita9.ed.jp

「あすチャレ！運動会」

7月21日（金）開催！

市内小学校4校、中学校8校の計12校から106名の先生方が参加しました。研修のねらいは「教職員がチームとなりパラスポーツ運動会に取り組むことを通して、教職員同士の関係を深める」「パラスポーツ体験を通して、多様性についての理解を深め、子ども理解につなげる」ことです。研修内容は、日本財団パラスポーツサポートセンター「あすチャレ！運動会」のプログラムを活用した、3種目のパラスポーツ（ボッチャ、ゴールボール、車いすリレー）運動会です。

アイスブレイクでは、声を出さずにグループに分かれる活動をしました。ジェスチャーで表す、空中に指で字を書く、スマートフォンの画面に文字を映す等、受講者それぞれに伝え方の工夫が見られました。その後、本プログラムのナビゲーターであり、現役のパラ・パワーリフティング選手でもある山本恵理さんから手話などを通じたコミュニケーション方法もあることを学びました。いよいよ学校対抗でのパラスポーツ運動会です。自然とコミュニケーションが生まれる中で、笑顔があふれ、明るい声が響きました。

研修後には、「今日の学びを職場や子ども達と共有したい。」「子ども達にも体験させたい。」「早速、道具を買おう。」等、共に体験して得た学びを学校の取組につなげようとする姿が見られました。パラスポーツを実際に体験することで、共生社会についての理解を深め、チームで協力することの大切さを実感するとともに、子どもとの関わり方を見直す契機となったようです。



【ナビゲーター】

山本 恵理

(現役のパラ・パワーリフティング選手)



今回、北九州市公営競技局には「先生方の学びが、子ども達の教育のためになる！」という考えに賛同していただき、研修実施費用を支援していただきました。本研修の学びを広く共有し、教職員一丸となって子ども達の教育に還元していきましょう。

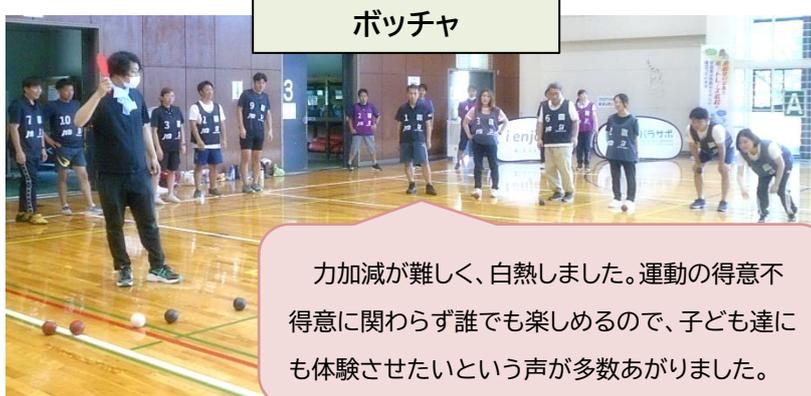


研修の様子

アイスブレイク



ボッチャ



力加減が難しく、白熱しました。運動の得意不得意に関わらず誰でも楽しめるので、子ども達にも体験させたいという声が多くあがりました。

ゴールボール



床に貼った白テープ(テープの下に紐が入っています)の手触りで自分の位置を確認し、ボールの中の鈴の音に集中します。



ゴールボールは「Quiet Please!」なので、声や音を出して応援できません。ゴールが決まると拍手したい気持ちを抑えて、「手話の拍手」で応援しました。



ハイタッチ!



車いすリレー



競技用車いすの特徴や扱い方を教えてもらいました。工夫次第でどんな人でも楽しめるスポーツは素晴らしいですね。

受講者の振り返り（一部抜粋）

- ポートレース若松の収益金が、学校施設に大きく役立てられていることを初めて知った。
- 「できない」や「難しいからやらない」と思ってしまうのはもったいないと感じた。このように感じたことは子ども達にも還元していきたい。
- 若い先生方が、こんなにも団結し活動を行えることに改めて気付かされた。学校経営に活かしていきたい。
- パラスポーツという言葉だけのイメージが一新された。それぞれに何か障がいがあっても、その中で工夫してできることがあるというポジティブなイメージを、身をもって学ぶことができた。それは学校現場においても、子どもに苦手な所や身体的・精神的に難しいことがあった際、教員として何か工夫したり、できる手だてを子どもに渡したりすることで、子ども達が成長できる可能性を生み出すことができるのだと感じた。
- 障がいがあってもなくても周囲が限界を決めてはいけないこと、可能性は無限にあることを改めて感じた。
- スポーツ体験を通して同僚の新たな一面を知ることができると感じた。
- パラスポーツという、今まで経験したことのないスポーツを通して、見聞を広めることができた。また、体を動かしながらコミュニケーションを図ることで、自然と相手との距離が縮まり、他者理解にもつながると気付いた。多様性を認め合い、様々な視点から物事を捉えて指導できるよう、今後に生かしていきたい。
- 何事もやってみることで新しい気付きがあることを再確認した。多様性を知るためには肌で感じるのが最も近道であると思うので子ども達にも様々な経験を積ませたい。